



AUE News

2012年11月15日

第 51 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(11月16-30日)
- トピックス
 - ・美術選修・専攻2年風景写生展
 - ・三河高校、瑞浪高校、安城南高校が本学見学
 - ・リソースルーム講演会「外国人児童生徒支援を多角的に考える」
 - ・あいちEDSフェスタ
 - ・しょくまるファイブ展
 - ・第2回新教養科目FD
 - ・秋のランチタイムコンサート
 - ・豊秋奨学会国際交流会に松田学長ら参加
 - ・秋祭
 - ・招へい教員、張教授が本学到着
- お知らせ・報告・投稿
 - ・学生募集要項説明協議会
 - ・海外協定校からの招へい教職員紹介
 - ・招へい教職員の翁麗芳教授より寄稿
 - ・催しもの案内

行事予定(11/1-15)

- 16日(金) 附属学校運営委員会 (14:30～ 第三会議室)
- 19日(月) 情報システム委員会 (9:30～ 図書館会議室)
- 20日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 21日(水) 教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
財務委員会 (15:30～ 第一会議室)
- 26日(月) 安全衛生委員会 (16:40～ 第一会議室)
- 27日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 30日(金) 総合防災・防火訓練 (15:30～ 第一・第二共通棟など)

トピックス

美術専修・専攻2年風景写生展(11/2-30)

美術選修・専攻2年の学生による「風景写生展」が11月2日(金)から、附属図書館2階のアイ♥スペースで開催されて、訪れる人の目を楽しませています。30日まで。

展示されているのは、8月に豊田山下で合宿をした際に作成した油絵の風景画36点。三河湖やその周辺のダムや清流、緑豊かな山々が、思い思いの構図でどれも色鮮やかに描かれています。例年、大学会館内での展示でしたが、今年はより多くの人が見やすいようにと同スペースで初めて行われました。

前日の夕方には、松本昭彦教授(美術教育)の指導で学生たちが絵の飾り付けをしました。「女性の目の高さに絵の中心がくるように、ワイヤーの長さを調節する。キャプションは絵の下に、握り拳ひとつ分間隔を空けて画びょうで留めること」などの説明を聞いた後、各自が展示作業に取り掛かりました。





学生たちは「今まで自分の作品をこうして展示することはなかったので、難しかった」「スポットの当て方一つで、絵が生き生きと見えます」などと展示の仕方も学んだ様子。松本教授は「教員になったら、子どもたちの絵を展示したり、取り替わたりするので、体験をしておいた方がいいと、毎年実施しています。教師になったら、きっと役立つはずですよ」と話していました。

学内での展示の後、12月6日（木）～来年1月13日（日）には、同市下山の「香恋（かれん）の館」でも展示会が行われます。

三河高校、瑞浪高校、安城南高校が本学見学(11/2,8,15)

愛知産業大学三河高校、岐阜県立瑞浪高校、愛知県立安城南高校の生徒が11月、相次いで本学を見学しました。



生徒は大興奮、普段と違う味を体験しました。

瑞浪高校の2年生32人と教員1人は、8日（木）に見学。本部棟第五会議室で、大学紹介の映像を視聴後、職員から取得できる免許・資格と就職状況等についての説明を受けました。今回は同高校出身の職員も出席し、本学の学生サポート体制を紹介した後、母校の制服、高校生活等の懐かしい話に触れると、生徒たちが一気に盛り上がりました。施設見学では、ガラス工房で佐々木雅浩准教授による気迫あるガラス吹きの実演を好奇心あふれる顔で見学するなど、深まる秋のキャンパスを回りながら、大学生活の夢と希望を膨らませていました。



安城南高校の1年生83人と教員4人は15日（木）に本学へ。第一共通棟の301講義室で、同校出身の本学4年生と現役職員の先輩が後輩に心を込めたアドバイスと温かい応援メッセージを贈りました。その後は学校教育の石田靖彦准教授による「児童生徒の自己肯定感について」をテーマにした模擬授業。アンケートを答えながら、先生のユニークな分析に耳を傾けました。ガラス工房では、熱い窯の前で、造形文化コース専攻の学生が高温で変形したガラスを切ったり、伸ばしたりする様子を見て、ものづくりの面白さを学びました。高校生の明るい笑い声が寒い雨中のキャンパスに響き渡り、本年度最後の大学見学を締めくくりました。



リソースルーム講演会「外国人児童生徒支援を多角的に考える」(11/3)

本学教育創造開発機構の地域連携センター外国人児童生徒支援部門では、11月3日（土）、恒例の外国人児童生徒支援に関する講演会を開催しました。この講演会は、外国人児童生徒支援リソースルームが主体となって開催しているもので、県内外から広く70人を超える参加者がありました。

今年のテーマは「外国人児童生徒支援を多角的に考える」。講師は2人で、元サンパウロ州教育局の日野寛幸先生は「ブラジルでの自己教育体験と帰伯児童教育現場」と題して話していただきました。ご自身の渡伯から今日に至るまでの生活を振り返ることで現在の日系人社会の歴史をわかりやすく説明してもらいました。また、長く教育局にお勤めであったということから、日本からブラジルに戻った子供達にどんな困難があるのか、統計資料を紹介しつつ



話していただきました。続いて、小牧市立小牧南小学校教諭の佐藤和吉先生が「個別の教育支援を必要とする子どもたち」と題して、子どもたちの様子のわかる映像を紹介しつつ講演。ユーモアある語り口で、記憶に残る授業の進め方、子どもたちの気をそらさない授業の進め方のヒントをいただきました。

現場の状況を熟知しているお人のお話はとても印象深く、また、今後の活動の糧になるものでした。

(日本語教育講座 准教授 上田崇人)

「あいちESDフェスタ 2012」に本学参加 (11/3, 4)

2014年に愛知・名古屋で催される「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」の開催決定記念行事「あいちフェスタ 2012」が、11月3日(土)、4日(日)に、長久手市の愛・地球博記念公園 (モリコロパーク) でありました。本学からは、大村秀章知事がキックオフ宣言を行ったオープニングセレモニーに、宮川秀俊国際交流センター長 (教授) が、ESDオフィシャルサポーターの白井貴子さんと共に、出席しました。



本学は、今年の1月よりユネスコスクール支援大学間ネットワークに加盟して、県内の学校のユネスコスクール加盟を支援しています。会場ではこれを紹介するパネル展示も行われ、ワークショップでは、愛知万博のイベントの再現である「愛知こどものものづくり」体験が技術教育の清水秀己教授、北村一浩准教授、宮川教授により実施されました。

同時に開催された国際教育協力のコーナーでは、JICA (国際協力機構) と協力しての写真展や教科書展示と、本学の留学生が参加した「留学生のお話を聞いてみよう」コーナーがありました。



また、本学地域社会システム講座の水野英雄准教授は、JOC A (青年海外協力協会) と共同でのワークショップ「世界の国ぐにを理解しようー貿易ゲームで学ぼう!ー」を開催。何れのイベントにも多くの参加者、見学者がありました。



(国際交流センター)

しょくまるファイブ展 (11/5-10)



本学で生まれた食育キャラクターの展覧会「しょくまるファイブ展」が11月5日(月)~10日(土)、刈谷駅前商店街のギャラリー、スペースAquaで開催されました。

しょくまるファイブは、2006年に西村敬子教授 (現・名誉教授、家政教育) 研究室の院生が「食事バランスガイド」にちなんだ5色の栄養指導手袋を考案したのが始まり。主食の「り

きまる」、主菜の「にくまる」、副菜の「べじまる」、牛乳・乳製品の「ほねまる」、フルーツの「フルーツまる」。子どもたちに栄養バランスの大切さを伝えるため、絵本や被服教材などに活用されて、2013年には県内の小学校や幼稚園で食育劇も上演されました。2012年度には商標登録もされています。

会場は、ポスターや人形、Tシャツ、バッグなどこれまで作成されたグッズの展示、メタボをボーリングのピンに見立てたゲームのできるコーナーなど、「しょくまるファイブ」一色。



10日には、10月に刈谷市が実施した「最強のしょくまるファイブカレーコンテスト」で応募総数672件の中から選ばれたグランプリ「切り干し大根とパイナップルのカレー」、準グランプリの「夏野菜のカレー」の試食会もあり、来場した親子連れなどが「子どもでも食べやすい」「美味しいカレー」などと感想を話していました。



第2回新教養科目FD(11/5)

来年度から教養科目のカリキュラムが大きく改編されますが、それに向けたFDの一環として第2回新教養科目FDが11月5日(月)午後4時40分から第五会議室で開催されました。参加者は話題提供者も含めて32人でした。

第1回(7月13日)では「4つのリテラシー」の中の科学リテラシーと多文化リテラシーから1人ずつの担当予定教員が話題を提供しましたが、今回は市民リテラシーから前田勉教授(社会科教育)が、ものづくりリテラシーから太田弘一教授と鎌田敏之准教授(ともに技術教育)が、現段階で構想している授業内容とその目的について説明しました。前田教授は、例えば福沢諭吉等の古典を読み、その内容について他者と論じ合うことを通して自己を相対化し、市民としての「政治的教養」を身に付ける授業を紹介しました。太田教授は、ものづくりリテラシーの概念について論じた後、どのように米や肉が作られるのかという観点から生産における技術の意義について理解させる授業について、また鎌田准教授は、スコラ哲学をはじめとする先人たちが築き上げてきた論理的思考の基礎の上に現代のプログラミングが成り立つことを理解させる授業についてそれぞれ紹介しました。参加者の間で活発な質疑応答が行われ、予定時間を30分超過して会は終了しました。



(日本語教育 教授 田村建一)

秋のランチタイムコンサート(11/7)

恒例の「秋のランチタイムコンサート」が11月7日(水)午後零時30分から、附属図書館2階のアイ♥スペースで開かれました。

附属図書館では季節毎に音楽教育講座の協力でコンサートを実施しており、今回は大学院生が出演してのプログラム。ソプラノ二重唱(モンテヴェルディ作)は、重厚なバロックのハーモニーを響かせ、木琴独奏(木琴小協奏曲より第3楽章/黛敏郎作)では院生と隈本浩明名誉教授のピアノの息の合った、リズムカル



で切れ味のよい演奏を聴かせました。ソプラノ独唱での「ノア・ノアの島―没後 100 年の A. Paul Gauguin を謳う―/小林秀雄作曲 木下宣子作詞」は、画家ゴーギャンの最後の 1 枚「私は何者なのか、私たちはどこへ行くのか」



をうたった作品。叙情たっぷりの曲を院生が豊かな表現力で歌い上げ、聴衆を魅了しました。他に、ピアノの独奏もあり、来場者はお昼のひと時を音楽で楽しんだ様子でした。



今回は、12月5日、音楽講座教員が出演の予定です。

豊秋奨学会国際交流会に松田学長ら参加(11/9)

11月9日(金)午後5時半から名古屋のキャッスルプラザホテルにおいて、豊秋奨学会国際交流会が開催され、松田正久学長、稲吉隆教育創造開発機構運営課長とともに中国からの留学生で大学院2年の胡一超さん(豊秋奨学生)が参加しました。

同会は、豊田紡織の西川秋治さん(本学の前身でもある師範学校の卒業生)が創設したもので、1962年(昭和37年)に設立され、50周年の節目に当たる本年は、日本の高校生、大学生、大学院生への奨学金のほか、中国からの留学生への奨学金給付や研究助成、海外渡航補助など多彩な事業を行っています。

当日も研究助成を受けた理系の教員による研究紹介のほか、上海の豊田紡績廠(しょう)思い出をつづったビデオなどが上映されました。交流会では同会の理事でもある榊裕之豊田工業大学長、林誉樹時習館高校校長、川井則夫旭丘高校校長のほか、松田学長も祝辞を述べました。全体で210人の参加者があり、交流会では多くの方と親睦を深め、手品、ビンゴなど催しも50周年を記念して多彩で、学長もビンゴに当たり、笑顔を見せる中で、8時に終了となりました。

(教育創造開発機構運営課長 稲吉隆)

秋祭(11/10,11)

「天まで轟け 秋祭音頭」をテーマに「秋祭2012」が11月10日(土)、11日(日)、本学で開催されました。

1日目は、秋晴れの好天となり2日間にわたって行われるスポーツ祭の中で、土グラウンドを使用するソフトボール、ハンドボールコートを使用する男子・女子のドッジボールが行われました。しかし、2日目には朝11時過ぎ頃から雨天となりソフトボールとミニサッカーは試合途中で残念ながら中止となりました。第一体育館、第二体育館を会場にしたバスケットボール、バドミントン、バレーボールの屋内球技大会で、学生たちは周囲の熱い声援に応え、ハッスルプレーを連発しながら気持ちの良い汗を流していました。



附属図書館南側に特設ステージがセットされ、音楽演奏を中心にダンスや合気道部の組み手で昨年より多い22団体(ダンスサークルの団体は附属屋2階にて)の学生などが日頃の練習成果を見事に披露しました。特にダンス部やダンスサークルのショーの演出は誰もが目を見張る動きで素晴らしい踊りを熱演していました。

2日目はステージでの客も少なくなったものの最後のビンゴゲーム大会では大勢の参加者の熱気で溢れていました。

また、図書館前と第一共通棟西側間の通りでは、ラーメン、たこ焼き、やきとり、ポテトとコロケ、たいやきなどを販売する出店や第一共通棟 1 階の教室内において、手芸・小物販売、マジックショー、寄席、ミニ四駆大会の企画が展開されていました。今回は 2 日目の雨天で客足が午前中少なくて心配されていましたが、第一共通棟内の出店関係では、午後から徐々に学生だけでなく、一般の地域住民の家族連れも多く来学して、盛況のうちに秋祭を終了しました。

(学生支援課課外教育担当係長 亀山重人)



招へい教員、張教授が本学到着(11/12)

本年度の海外協定校招へいプログラムにより、11月12日(月)に台湾・彰化師範大学の張清泉教授が、本学に到着しました。

到着後は、宮川秀俊国際交流センター長と同センター職員が同席。学長室で迎えた松田正久学長が歓迎の言葉を述べた後、研究テーマである「書道」に関することや滞在中の生活について懇談しました。

張教授から、松田学長に作品集と自身が書いた2本の掛け軸が贈られ、掛け軸には、それぞれの書に「愛、教、大」「知、育、学」の文字が含まれ、2本の対で「愛知教育大学」の文字が見えるというものです。



張教授の研究期間は、2012年11月12日から2013年1月11日(金)まで。共同研究者である国語教育の木村博昭教授のもと、同教授が担当する「書道演習」の授業に参加いただき、学生の御指導をいただく予定です。

最後に学長から、「書道の作品製作を通じて、本学教職員、学生との様々な交流をお願いします」と要望がありました。

(教育創造開発機構運営課 副課長 前川由光)



お知らせ・報告・投稿

学生募集要項説明協議会(報告)

平成 25 年度愛知教育大学学生募集要項説明会を、10 月 31 日(水)に本学第一会議室で開催しました。協議会は 10 月 19 日に発表した平成 25 年度一般入試学生募集要項について周知するのが目的で、愛知県内の高校連絡指導教諭 107 人の参加がありました。



松田正久学長のあいさつに続いて、本年度から本学が課す大学入試センター試験利用教材・科目および個別学力検査の種別並びにその科目等に変更があることから要項の変更箇所を中心として、林光春入試課長が説明を行いました。質疑応答では、選抜方法や取得できる免許および就職状況についての質問が出され、都築繁幸学生担当理事、樋口眞二教務課

長、三浦孝史キャリア支援課長らが、それぞれ応じました。

同会修了後も、過去問題閲覧コーナーにて、熱心に過去問題を閲覧する姿も見られ、本学を志願する生徒への受験指導が期待されました。

(入試課 学部入試係 松本典江)

海外協定校からの招へい教職員紹介(お知らせ)

今年度の「海外協定校からの教職員招へいプログラム」では、すでに3人の教員がプログラムを修了し、帰国されました。現在は、下記の3人の教職員が滞在中です。

① 翁麗芳氏 (台北教育大学教授)

滞在期間：2012年10月1日(月)～11月30日(金)

研究内容：台湾と日本における幼児教育人材養成の比較研究



② ニコン・トーンスック氏

(チェンライ・ラチャパット大学事務職員)

滞在期間：2012年11月1日(木)～12月25日(火)

研修内容：愛知教育大学の事務と資料の仕事



③ 張清泉氏

(台湾・彰化師範大学教授)

滞在期間：2012年11月12日(月)～2013年1月11日(金)

研究内容：書道・詩吟・仏学・儒学



なお、11月27日(火)には、翁麗芳先生を講師に迎え、「招へい教職員による講演会(第2回)」の実施を予定しています。時間は午後5時～6時、場所は大学会館中集会室です。

翁先生の研究テーマをメインとした非常に興味深い内容となっていますので、ぜひ奮ってご参加ください。

招へい教員、翁麗芳教授より(寄稿)

現在本学で研究中の海外協定校からの招へい教職員、翁麗芳先生(国立台北教育大学)が本学滞在の感想を寄せてくださいました。

*

*

【本学の秋を満喫—自然の恵みと人文発展】

人口密度が高い、夜中までネオンや電気看板が光っている台北に比べれば、刈谷市は田舎だろうか。私には刈谷市は宝山と思えます。

10月1日(月)、刈谷市に到着してからの1カ月、愛教大キャンパス、そして学外スーパーへの買い物や散歩は私の日課でした。(※写真左)

台北ではいつも駆け足で講義か会議にでかけ、ゆっくり歩く余裕はありませんでした。また、いつでも食事ができる飲食店がどこにでもあり、しかも会議にはつき物の弁当やデザートで食事は成り立つので、私は台北ではほとんど自分で食事をつくることはなかったです。それだけに、私の愛教大招へい教員の暮らしは新鮮でした。

国際交流会館には行き届いた台所用品がそろっています。スーパーで入手した材料を料理することは楽しい。秋晴れの青い空の下、本部棟のそばの細い路を出て、黄金色をした稲穂の田んぼを目にして、なぜか平和な世界を感じます。

「田んぼを渡って買い物に行くの?」と、東京や台北の友人は私の愛教大での生活ぶりを面白く思ったそうです。それだけでなく、キャンパスの豊かな自然に私は驚きます。夜は虫、朝は鳥の鳴き声、私は別荘地宿泊経験を思い出します。台北で長年不眠症に悩んでいる私は、愛教大構内の会館でぐっすりと眠れました。台北教育大学の同僚に話したら、みなに羨ましがられます。



キャンパスで学生たちが木の下などで自家製の弁当を食べてる風景はとても快いものです。私も友人から新米を頂いたので、ご飯を炊いておにぎり弁当を研究室へ持っていきました。どんぐりを拾いに来ている幼稚園の子どもたちに出会ったり、日に日に黄色く変わってゆく銀杏、夜、会館への帰り道での金木犀の良い香り、私は愛教大キャンパスで日本の秋を満喫しています。

こんな台北では味わえない生活こそ、心の余裕ができるよい生活だと思いました。



私は 1980 年代、8 年間東京で留学生生活を送りました。その時、またそれ以来の 30 年間は、お米、ご飯の美味しいことになぜ気づいていなかったのだろう。いまはご飯、野菜、柿、一つ一つの味に気づきます。

人間には自然が必要です。自然に囲まれた愛教大のキャンパスで精神的に落ち着き、感受性も豊かになっていることだろう。

いま、子どもの教育はまさに自然の必要性を訴えています。

もっともなことです。30 年をかけて、私はやっとその真義を吟味することができました。

理解できない方は、1 カ月ほど台北教育大学ご滞在をお勧めします。それで都会のばかばかしい緊張感と、愛教大の自然に恵まれた落ち着きがわかると思います。

人間は、体験によって得ることがあります。交換留学生制度、教職員招へいプログラムは大いに意義があります。感謝をこめて今後も協力させていただきたいと思います。

翁麗芳 (臺灣・国立台北教育大学)

催しもの案内

◆第 6 回科学・ものづくりフェスタ@愛教大

11 月 17 日 (土) 10:00~16:00 入場無料、事前申し込み不要

第一共通棟

対象：小中学生、高校生、教員、一般

訪問科学実験、ものづくり教室、天文台一般公開など計 33 プログラム。ランチタイム・レクチャー (12:30~) のテーマは「今はいつ? 宇宙の始まり」(講師：澤武文教授)。

問い合わせ：科学・ものづくり教育推進センター

TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 3 1 2

ホームページ URL <http://www.step.aichi-edu.ac.jp>

◆第 77 回愛知教育大学天文台一般公開

11 月 17 日 (土) 10:00~20:00

自然科学棟屋上天文台、第一共通棟 106 室など

天文工作教室「星座早見盤を作ろう!」(10:00~16:00)、「3D 宇宙の旅」上映会(10:00~16:00、18:00~)、星空観望会(10:30~12:00、14:00~15:30、18:00~20:00)、天文ミニ講座「今はいつ? 宇宙の始まり」(17:00~18:00、講師：澤武文教授)

問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室

TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 2 4

ホームページ URL <http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>

◆愛知教育大学教育実践研究科(教職大学院)「フォローアップ研修会」

11 月 17 日 (土) 13:00~16:30 参加無料、要予約

ウインクあいち(愛知県産業労働センター、名古屋市中村区)1003(中会議室)

本学教育実践研究科(教職大学院)の修了生を支援する取り組みを一般公開。

内容：13:00 受付開始

13:35 講演 藤田武志氏 (日本女子大学准教授)

14:45 実践発表 都筑 太 (知立市立竜北中学校、1 期生)

堀部美咲 (犬山市立犬山西小学校、2 期生)

中村浩二 (名古屋市立明正小学校、3 期生)

15:50 グループ交流 (終了 16:30)

問い合わせ: 教務課 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 7 9

E-mail: support_ml@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

◆冬のランチタイムコンサート

12月5日(水) 12:30~13:15 入場無料

附属図書館 アイ♥スペース

出演者: 音楽教育講座教員

プログラムは当日発表。

編集後記

本学では、高校からの大学見学のほか、中学校からの「職場体験訪問」なども受け入れていきます。10月に来学したある中学校の生徒たちは「初め、大学の授業は話し声もなく、ただノートをとるだけと思っていたのに、実際に授業を見て、とても楽しかった」「堅いイメージがあったけれど、大学生や先生たちが、あいさつしてくれて嬉しかった」と感想を話してくれました。そんな声を聞くと、何度かの打ち合わせや授業見学の準備の甲斐があったと、こちらも嬉しくなります。今年度の大学見学の受け入れは11月をもって無事、終了。大学見学にご協力いただいた学生さんや教職員の皆さまに、厚くお礼申し上げます。来年度も中高生が「私も愛教大に入りたい」と強く思ってくれるような機会を提供できるように、広報担当者一同、頑張るつもりです。よろしく申し上げます。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者: 総務担当理事 折出 健二